

皇室文化

華ひらく



2018年
4月17日(火) —
5月27日(日)

開館時間: 午前10時～午後5時(入館は午後4時まで)
休館日: 月曜日(但し、4/30(月・連休)、5/1(火)は開館)
観覧料: 一般 1,400円、高大生 700円、小中生 500円
※20名様以上の団体は一般200円、その他300円割引
※土曜日は小中高生入館無料
主催: 徳川美術館、名古屋市蓬左文庫
CBCテレビ、中日新聞社、日本経済新聞社
企画: 華ひらく皇室文化実行委員会
協力: 学校法人 学習院、CBCラジオ、名古屋市交通局
特別協力: 博物館明治村
明治天皇・昭憲皇太后御料車特別公開
3/17(土)・4/23(月)
※詳しくは博物館明治村(電話 0568-67-9314)まで

海客作品
上: 七宝草文文京花巻 竹内昌兵衛作 七宝金銀器 一對の内
東京・豊分館蔵
下: 中丸帯 東京・文化学園蔵 豊分館蔵

徳川美術館 蓬左文庫
THE TORUGAWA ART MUSEUM HOSA LIBRARY

今上天皇御在位30周年記念
春季特別展
明治一五〇年記念

明治宮廷を彩る技と美



東宮御所孔雀之間

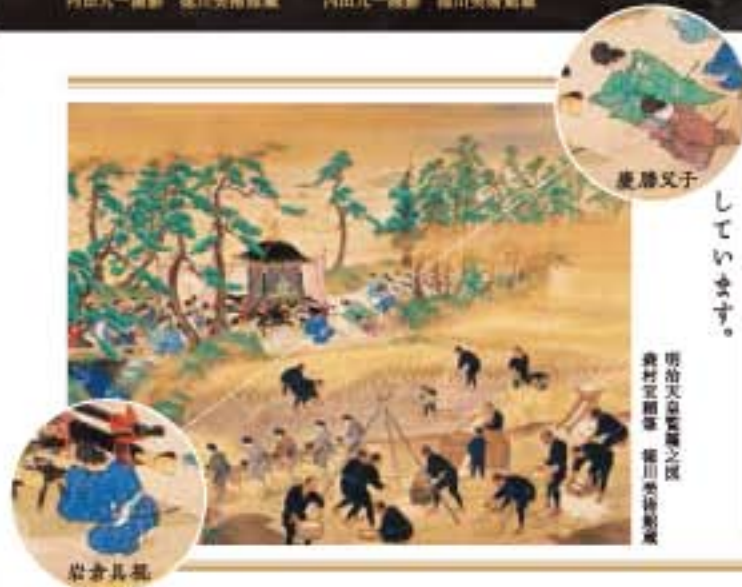
The Blossoming of Imperial Culture
—Technique and Aesthetic in the Adornments of the Meiji Court



昭憲皇太后御真影 内田九一撮影 徳川美術館蔵
明治天皇御真影 内田九一撮影 徳川美術館蔵

明治天皇、 名古屋の地に

明治天皇は東京へ勸座する際、明治元年(一八六八)九月二十七日に名古屋に到着し、熱田神宮へ参拝した後、東海道沿道の八丁堰(現、瑞穂区東ノ宮神社付近)で農民の収穫を初めて天覧しました。
尾張徳川家十四代慶勝・義宣父子は、熱田西浜御殿を行在所として天皇を迎え、翌日は鳴海まで風箏を覧しました。因は八丁堰での農事天覧の様子を描いています。風箏に列り取った稲を掲げているのが岩倉具視で、その右側に慶勝父子が拝伏しています。



慶勝父子



岩倉具視

4月28日(土)

「昔語りは珠璣のごとく
—平政に伝えられる明治の皇室文化—」
榊子女王陛下
午後1時30分～3時
定員180名 ※申込制無料(入館料は別途要)
往復はかきに住所・氏名・人数・Telを記入の上徳川美術館特別演説係まで、2月26日必着、抽選、1枚で2名まで。

4月29日(日)

「尾張徳川家名宝の伝来を紐とく」
西辻秀紀(徳川美術館 学芸部長)

5月19日(土)

「幕末から明治の美術をめぐる環境」
薄田大輔(徳川美術館 学芸員)
各日午後1時30分～3時 ※有料

4月27日(日)

レクチャーコンサート
「華ひらく明治の西洋音楽」
5月12日(土)
「宮中晩餐会とボンゴニエール」
長佐古美奈子氏(学習院大学史料館 学芸員)

5月13日(日)

「華ひらく皇室文化」
—明治天皇と昭憲皇太后が愛でた美術品—
小松大秀氏(本展監修者・公益財団法人 永青文庫 館長)
①午後2時～、②③午後1時30分～3時 ※申込制有料
お問い合わせ: 052-935-6262

5月13日(日)

「戦国武将なりきり体験」
史中模造刀に熱れたり、記念写真が撮れます。
午前11時～12時・午後1～3時 ※入館者参加自由

4月27日(日)

春を謳う
徳川團扇丹染
4月7日(土)～4月30日(日)休館
同時開催「ユネスコ世界記憶遺産登録記念 朝野宮内省の古道具」
6月1日(金)～
7月16日(月・祝)
光緒皇帝(加)1
保井清彦蔵
徳川美術館蔵

4月27日(日)

全編録「タイムスリップ1918 大正の名古屋」
—米騒動騒動に見る190年代のモダン都市—
同時開催「ユネスコ世界記憶遺産登録記念 朝野宮内省の古道具」
6月1日(金)～
7月16日(月・祝)
光緒皇帝(加)1
保井清彦蔵
徳川美術館蔵

徳川美術館
THE TORUGAWA ART MUSEUM
蓬左文庫
HOSA LIBRARY
〒461-0023 名古屋市中区蓬左
徳川美術館 電話 052 935-6262
名古屋市蓬左文庫 電話 052 935-2173





皇室御用命の
帝室技芸員
並河靖之の七宝!

青銅製七宝文七宝花瓶
並河靖之作 一対の内
京都・東福寺蔵
撮影：©山崎敬雄

現実的な光と
遠近法を
取り入れた
革新的な大作!



東洋文化財 白銀紅雲図
橋本深雪画
東京藝術大学大学美術館蔵
展示期間：4/17-5/4

驚きの
写実的表現
これぞ、
超絶技巧!



太平美歌物
海野深雪作
東京・宮内庁三の丸尚書館蔵



菊花彩繪花瓶
初代 宮川晋山作
東京・皇居神古部分館蔵



色絵金彩花鳥文花瓶
伊山伝七作
東京・皇居神古部分館蔵



松竹梅文圖御形
明治宮廷を
彩った
日本の技と美。

皇室の御慶事を
記念した菓子器
ボンボニエール



鳥籠形

八咫鏡形懸文

招福形竹文



六角形懸文



手箱形梅草舟形



入江鏡形茶



祥雲形



雲ね籠形

繪に池 翠鏡形

※は個人蔵。
他は全て東京・学習院大学史料館蔵

した動きは日本の国際的地位を高める一方で、江戸時代から続く美術・工芸の保護育成に大きな役割を果たしました。
本展では、華やかな明治期の宮廷を彩った調度品や染織品、帝室技芸員の絵画・工芸品を一堂に集め、日本の美と技の粋を堪能する機会とします。

皇室文化

平成30年は明治維新から150年目の記念すべき年にあたり、明治期の宮廷文化にスポットを当てた展覧会を行います。明治政府と皇室は、欧米諸国との融和をはかるため、美をこらした鹿鳴館において、各国の使節をもてなすとともに、日本独自の芸術品を広く海外に紹介しました。こう

華ひらく

明治天皇、
昭憲皇太后が
愛した調度品。



冠形紫雲文



昭憲皇太后の
御遺品

紺色紅刺繍流水梅文小袖
京都・華學院門前蔵
展示期間：5/9-5/27



青銅製着せ湯敷手箱
東京・学習院大学史料館蔵

昭憲皇太后が
愛用した
ドレス



通背丸服
京都・華學院門前蔵
展示期間：4/17-5/4



テーブル 皇室御用家具
愛知・博物館明治村蔵



菊輪紋吹雪
京都・大徳寺門前蔵